

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大牟田市立明治小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒 836-0012  
福岡県大牟田市明治町 2-21-1

E-mail : meiji-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website : http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/meiji-es/

児童生徒数：男子 86名 女子 110名 合計 196名  
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( 福祉 )

## 4. 活動内容

### (1) 1年間の主な活動内容

#### ① 本校におけるエネルギー環境教育、福祉教育

本校は、校区内に清掃施設，リサイクル施設，環境学習施設，RDF発電所等など，エネルギーや環境に関する施設があるという特色を生かし，教育課程にエネルギー環境教育を位置づけ，生活科・総合的な学習の時間を中心にエネルギー環境教育を継続している。また，本年度からは心の教育の充実を図るために，地域にある高齢者福祉施設や地域の高齢者の方々との交流を通して福祉教育にも力を入れている。

#### ②活動例

##### 【環境】

＜4年生：総合「みつめよう くらしの中のエネルギー」＞ 8時間

**単元のねらい…発電の仕組みを理解し，電気エネルギーへの関心を持ち，生活との関連を考える。**

まず，手回し発電器のハンドルを回して電気をつくり出す体験を通して，電気をつくり出すことの大変さを実感させた。次に，家庭や学校にある電気製品の種類や数を調べさせ，自分達の生活には電気が無くてはならないことに気づかせた。さらに，日本では火力発電が主体で，その燃料である石油の埋蔵量には限りがあることを知らせた。このことから，こまめに電気を消すこと，使わないコードはコンセントから抜いておくなど，自分たちができる節電など，具体的な生活の見直しまで考え，電気の効率的な利用について捉えていった。最後に，再生可能エネルギーについて調べ，まとめたことを発表し合い，これからのエネルギー消費の在り方について自分なりの考えを持つことができた。

＜5年生：総合「ぼくたち，私たち環境探検隊」＞ 20時間

**単元のねらい…身の回りの環境の現状に関心を持ち，水について意欲的に調べるとともに積極的に環境を守っていく態度を育てる。**

環境破壊をはじめとする世界的な規模の深刻な問題は，ESDのキーワードでもある「つながること」と「かかわること」を地球規模で実践していくことが，未来を担う子どもたちにとって大きな意味を持つ。

まず子どもたちは，校区を流れる堂面川の水質や生き物等を調査した。次に，調査で得られた知識や情報をもとにして話し合ったり，学習支援ボランティアの方に意見をもらったりしながら気づいたことを模造紙にまとめた。さらに，中国からの研修員の方々とともに水質汚濁の実験を行い，水環境保護の重要性を認識するとともに，その意義に気づいた。そして，環境破壊は世界的規模の問題であるという話から，持続発展可能な社会をつくるため，その対応には各国が協力しあいながら行動を起こしていく必要があることにも気づいた。

## 【福祉】

### ＜1年生：生活科「ぐんぐんのびろ」＞ 14時間（環境も含む）

単元のねらい…地域の高齢者と一緒に緑のカーテンづくりの活動を行い、自然の力を使った夏の涼しい過ごし方に気づく。

校区在住の高齢者を招いて、アサガオを緑のカーテン用の花壇に植える活動を行った。大人と一緒に植えることで、1年生にとっては難しい作業も楽しく交流しながらスムーズに進行した。その後、熱心に水やりや草取りなどの世話を続けた結果、夏休みの間に3階のベランダ柵まで蔓が伸び、たくさんの葉を繁らせて緑のカーテンが完成した。残暑が厳しい9月を涼しく過ごすことで、子どもたちはエアコンや扇風機を使わなくても快適な環境をつくる方法があることに気がついた。また、この活動を行ったことで、地域へも自宅に緑のカーテンをつくる活動が広がってきている。

### ＜5年生：総合「ふれ合いを広げよう」＞ 25時間

単元のねらい…高齢者との交流活動に取り組むことを通して、自分なりの課題をもち、福祉について考えることができる。

まず、校区にある高齢者福祉施設の入居者の方々と交流する計画を立てた。その際、喜んでもらえるにはどうすればいいか、何が必要かを考えた。実際の訪問では、一緒に歌ったり、折り紙を折ったり、あやとりをしたりして交流した。これらの活動を通して、相手の立場を思いやる姿勢が見られるようになり、「支え合い共に生きる」とはどういうことなのか、自分にできることは何かなどについてまとめることで、これからの自分の生き方を考えるようになった。

### ＜3年生：総合「高齢者に昔のことを学ぼう」＞ 25時間（環境も含む）

単元のねらい…地域の高齢者と一緒に火おこし体験を行い、昔の人の知恵や技術について知る。

校区在住の高齢者をGTとして招き、実際に七輪での火おこしと調理を行った。現代の生活で一般的になっているIH調理器やガスコンロとは違い、七輪はすぐに火がつかなくなかったり煙が目にしみたりすることを体験し、電気やガスのおかげで自分達の生活がいかに便利になっているかを理解した。また、GTの方々が手際よく段取りを行い、七輪の火力を自在に操る姿を見ることで、高齢者の持つ知恵や技術について知るとともに、尊敬の念を持つようになった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）